

富山湾漁場環境総合調査（藻場）について
～海藻現存量の経年変化を追跡～

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所
主任研究員 浦邊 清治

1 背景・ねらい

藻場は、海草や海藻の群落であり、沿岸域の漁業生産を支える重要な基盤となる。平成13年度、18年度および23年度に実施した調査結果から、一部の藻場の衰退が確認された。

このため、漁業関係者などから、海藻現存量の経年的な変化の把握などが求められていた。

そこで、平成28年度に、県内の主要藻場7地先（図1）において、海藻現存量調査を実施し、海藻繁茂期における海藻現存量を平成18年度の結果と比較したので報告する。

2 成果の概要

氷見市小境、阿尾、滑川市中川原、魚津市青島、仏田、入善町田中および朝日町元屋敷の7地先の26地点において、海藻の繁茂期（5、6または3月）に1回、海藻現存量を調査し、10年前に得られた値と比較した。

その結果、海藻現存量は13地点では半分以下、6地点では倍以上となった（図2）。海藻現存量が、半分以下となった要因としては、優占種の変化や生育量の違いなどが考えられる。

氷見市阿尾地先の水深1m、滑川市中川原地先の水深3mおよび5m、魚津市仏田地先の距岸120mでは、優占種であったテングサ類の現存量が半分以下となった。また、優占種がテングサ類からフクロノリやアナアオサなどの一年生海藻へ変化していた。

3 成果の活用面・留意点

藻場の保全を行う上で、海藻現存量や藻場面積の経年変化を把握することは重要である。

本調査において、優占種であったテングサ類の現存量が半分以下となり、優占種が一年生海藻へ変化していた地点については、生育環境に変化が生じている可能性も考えられる。したがって、引き続きモニタリングを継続するとともに、その要因の解明が必要である。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター 水産研究所 栽培・深層水課

担当：浦邊 清治

TEL：076-475-0036

(参考) 具体的データ

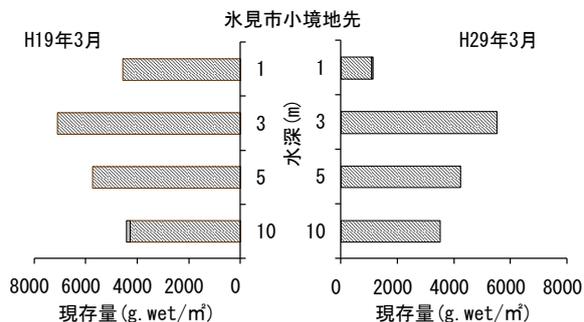
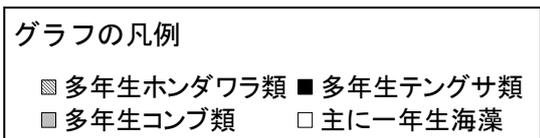
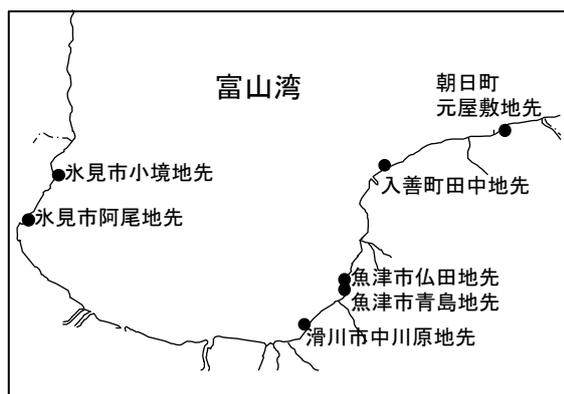


図1 調査地点位置図

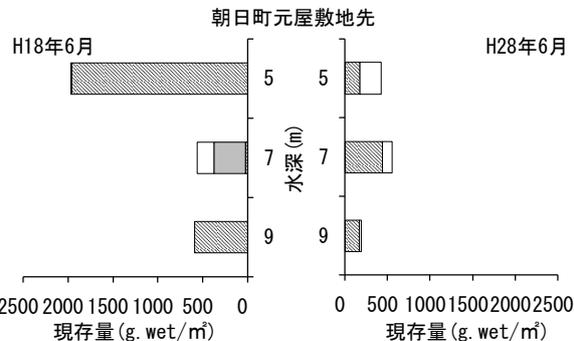
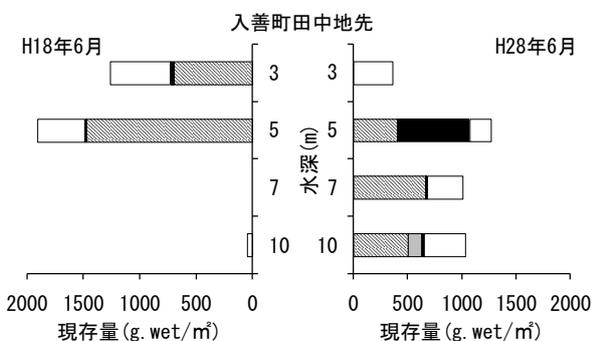
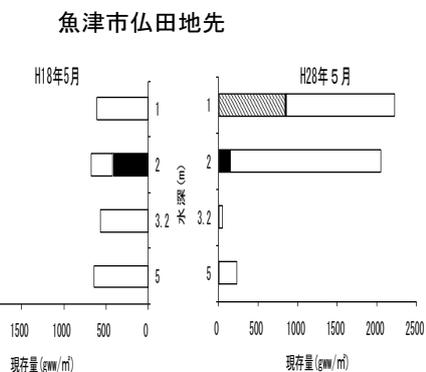
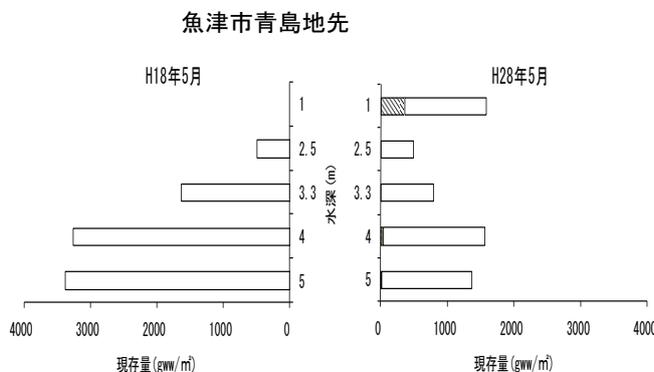
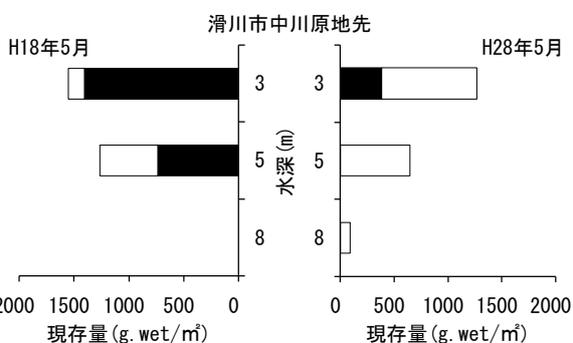
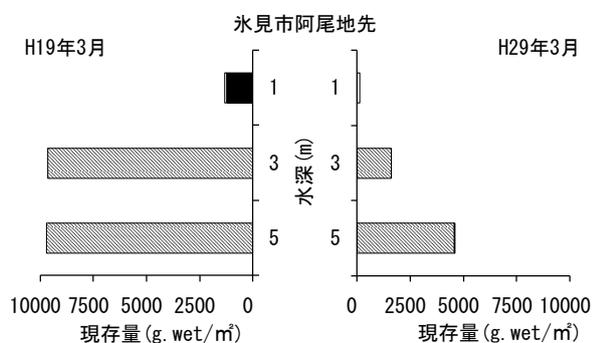


図2 県内主要藻場7地先26地点における平成18年度および28年度の繁茂期における海藻現存量